

# 2014年度決算概要 及び 2015年度業績予想

 住友重機械工業株式会社  
社長 別川 俊介

# 経営方針

## 2015年度

- 「中期経営計画2016」を1年前倒しで達成し、  
次期中計に向けさらなる飛躍を目指す。
- 堅実な経営を継続する～品質第一の経営の実践。
- 売上高7,000億円、営業利益525億円の  
目標を必達する。

# 2014年度 業績サマリー

## ■ ポイント

### (1) 受注高

- ・過去最高を更新。
- ・全セグメントで前期比増加。

### (2) 売上高

- ・過去最高を更新。
- ・産業機械は減少。
- ・上記以外は受注増の影響を受け増加。

### (3) 営業利益

- ・為替好転もあり、全セグメントで前期比増加。

### (4) 当期純利益

- ・減損等特別損失が発生するも増加。

	2013	2014	増減
受注高	6,582	7,408	826
売上高	6,153	6,671	518
営業利益	343	460	117
営業利益率	5.6%	6.9%	1.3%
経常利益	330	451	121
経常利益率	5.4%	6.8%	1.4%
特別損益	△17	△64	△47
税金等調整前 当期純利益	313	387	74
当期純利益	179	243	65
当期純利益率	2.9%	3.6%	0.7%

単位: 億円

# セグメント別営業利益

単位: 億円

## ■ 対前期比

### <機械コンポーネント>

国内、北米の売上好調により増益。

### <精密機械>

射出成形機が牽引、半導体関連装置、精密機器も好調に推移し大幅増益。

### <建設機械>

油圧ショベルが北米、欧州向けの増加などにより増益。

### <産業機械>

海外自家発電向けタービン好調などにより増益。

### <船舶>

新造船の引渡しは前年1隻から3隻へ。操業度の向上により損益改善。

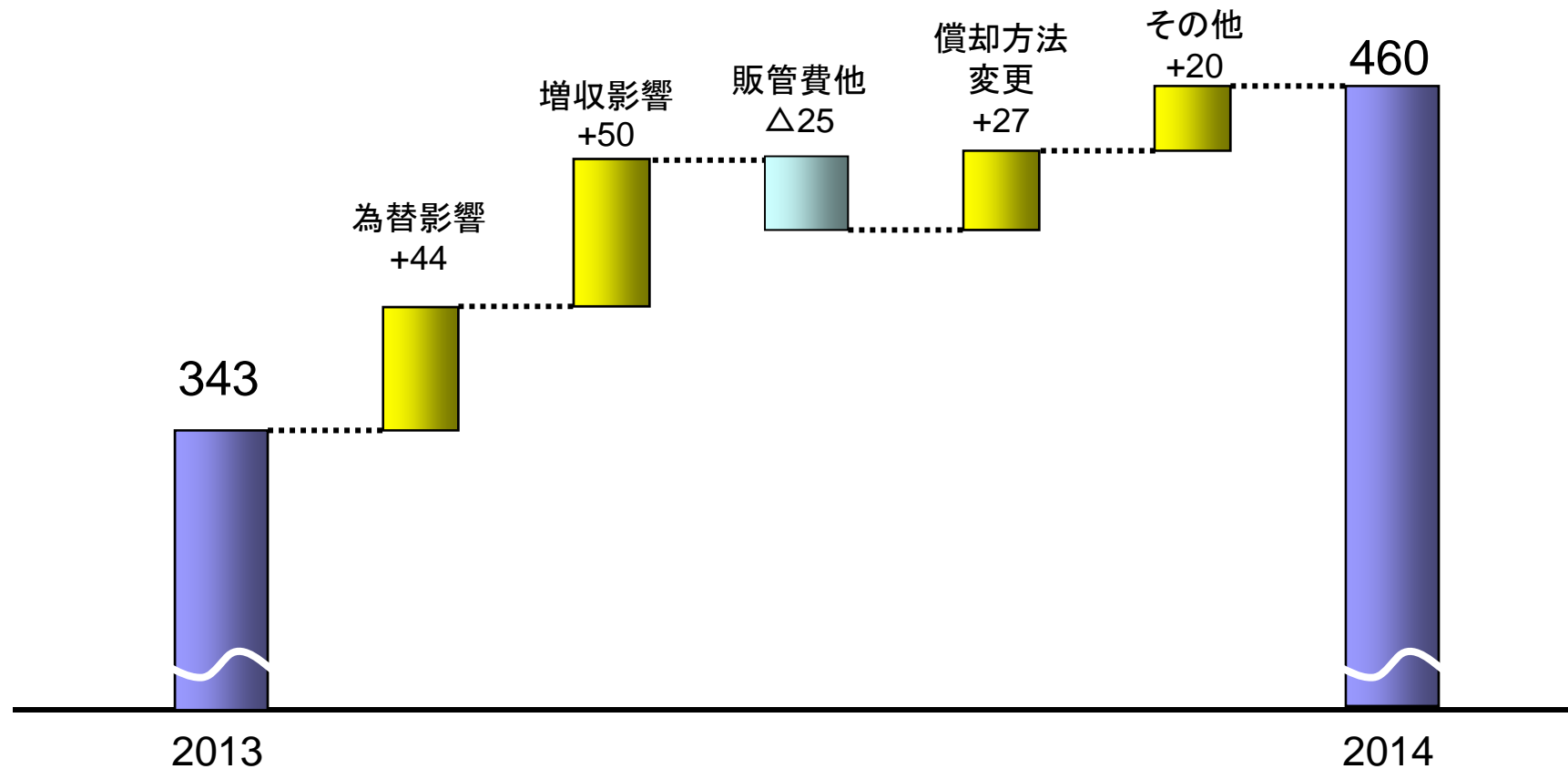
### <環境・プラント>

CFBボイラー工事の進捗などにより増益。

	2013	2014	増減
機械コンポーネント	61	66	5
精密機械	95	135	41
建設機械	95	119	24
産業機械	40	58	18
船舶	△30	△12	17
環境・プラント	61	75	15
その他	22	18	△3
計	343	460	117

# 営業利益増減分析(2013年度－2014年度)

単位: 億円



# 連結貸借対照表

- ネット有利子負債はマイナス。
- 受注・売上増により運転資本項目が増加。

単位:億円

	2014/3末	2015/3末	増減		2014/3末	2015/3末	増減
<b>流動資産</b>	<b>4,350</b>	<b>4,920</b>	<b>570</b>	<b>負債</b>	<b>3,931</b>	<b>4,209</b>	<b>278</b>
現預金	778	924	146	買掛債務	1,242	1,404	162
売上債権	1,820	1,949	130	前受金	305	447	142
たな卸資産	1,442	1,538	96	有利子負債	1,074	836	△238
その他	309	508	199	その他	1,310	1,521	211
<b>固定資産</b>	<b>2,892</b>	<b>2,940</b>	<b>48</b>	<b>純資産</b>	<b>3,311</b>	<b>3,651</b>	<b>340</b>
有形固定資産	2,203	2,283	80	株主資本	2,751	2,937	186
無形固定資産	86	93	7	その他の包括利益 累計額	513	664	151
投資その他の資産	603	564	△39	少数株主持分	46	50	4
合計	<b>7,242</b>	<b>7,860</b>	<b>618</b>	合計	<b>7,242</b>	<b>7,860</b>	<b>618</b>
				ネット有利子負債比率	4.1%	△1.1%	△5.2%
				自己資本比率	45.1%	45.8%	0.7%

※ 現預金には現金同等物を含む

# 連結キャッシュフロー計算書

単位: 億円

区 分	2013	2014	増減
<b>営業活動</b>	<b>637</b>	<b>621</b>	<b>△15</b>
税金等調整前当期純利益	313	387	74
減価償却費	186	163	△23
運転資本	186	117	△69
その他(税金等)	△48	△45	3
<b>投資活動</b>	<b>△276</b>	<b>△141</b>	<b>135</b>
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	<b>360</b>	<b>481</b>	<b>120</b>
<b>財務活動</b>	<b>△95</b>	<b>△369</b>	<b>△274</b>
<b>現金・現金同等物増減</b>	<b>299</b>	<b>140</b>	<b>△160</b>
現金・現金同等物期末残高	764	903	139

# 2015年度業績予想

- 受注は2014年度過去最高。2015年度も引き続き7,000億円台に。
- 2015年度は増収増益。売上高は過去最高、7,000億円台に。
- 2014年度配当は期初9円予想から12円に。2015年度配当予想年間14円に。

単位: 億円

	2014上期 実績	2014下期 実績	2015上期 予想	2015下期 予想	2014年度実績	2015年度予想
受注高	3,655	3,753	3,400	3,700	7,408	7,100
売上高	3,063	3,608	3,300	3,700	6,671	7,000
営業利益	199	261	200	325	460	525
営業利益率	6.5%	7.2%	6.1%	8.8%	6.9%	7.5%
経常利益	200	251	195	305	451	500
経常利益率	6.5%	7.0%	5.9%	8.2%	6.8%	7.1%
特別損益	△3	△61	△5	△5	△64	△10
当期純利益	123	121	110	190	243	300
当期利益率	4.0%	3.3%	3.3%	5.1%	3.6%	4.3%
配当	5円	7円	7円	7円	12円	14円
配当性向					30.2%	28.6%
ROIC (税引後)					6.5%	7.2%
織込レート(ドル)					107円 (実績)	118円

※ ROICの税率は14年度より45%から40%に変更

※ 15年度予想の「当期純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」



# 機械コンポーネント

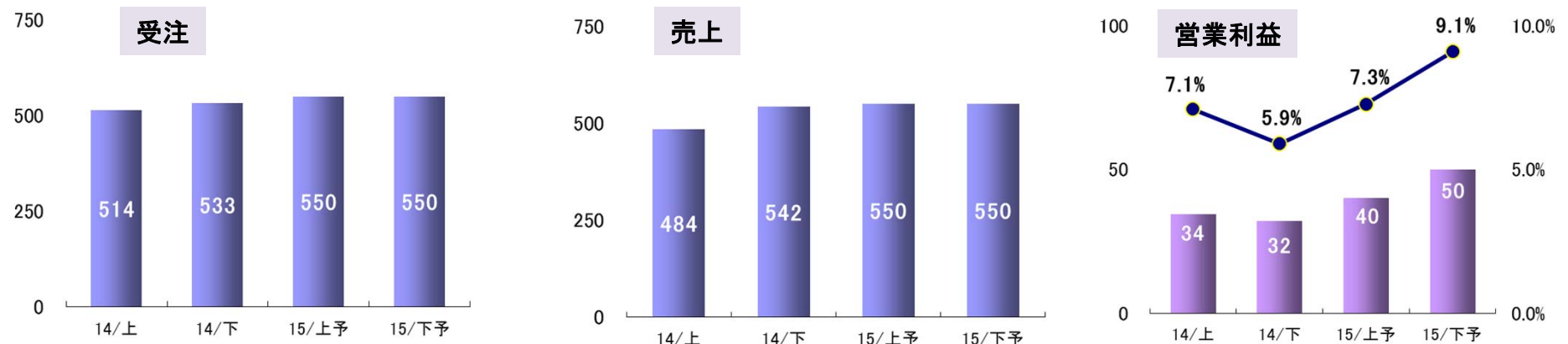
## 受注・売上

- 14年度：** 国内市況の好調継続に加え北米も好調により、受注・売上ともに増加。  
受注・売上とも過去最高を達成。資源関連向けの大型減速機の需要低迷は継続。
- 15年度：** 国内、北米は堅調に推移、中国の回復は遅い。海外の資源関連向け大型機種は  
停滞継続するも新商品投入により回復を図る。

## 営業利益

- 14年度：** 国内、北米の売上好調等により増益。
- 15年度：** 国内堅調、海外子会社収益改善により増益。

単位：億円



# 精密機械

## 受注・売上

### <プラスチック機械>

14年度：アジアを中心にIT関連需要が好調であったことに加え、欧州堅調で受注・売上とも増加。

15年度：アジアでのIT関連需要は足元好調だがスローダウン、北米の自動車・容器関連は堅調継続、欧州は前年並みを想定。

### <精密先端機器>

14年度：半導体製造装置の需要回復。医療機器向け極低温冷凍機も堅調。

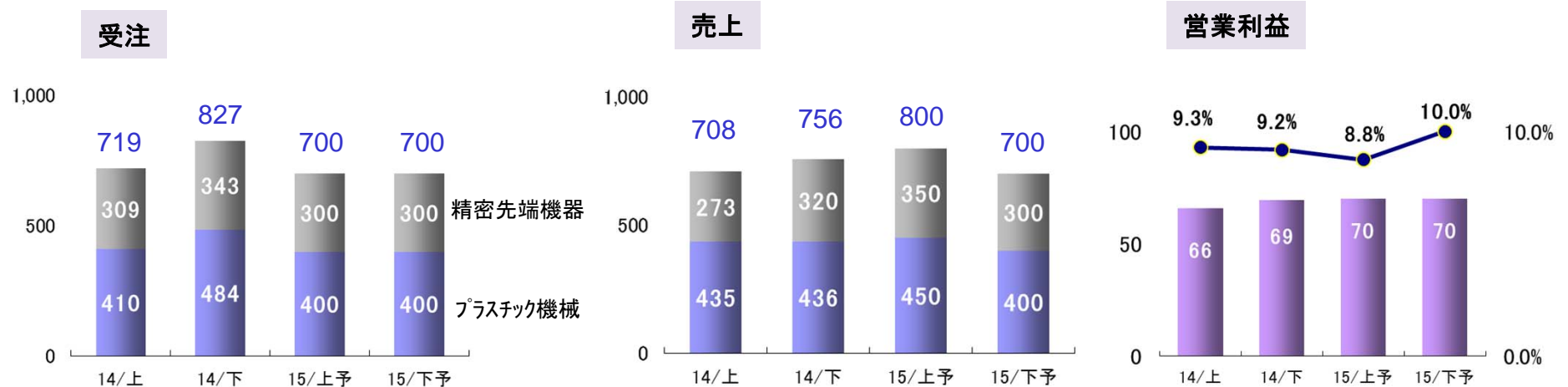
15年度：冷凍機は堅調に推移、半導体製造装置はスローダウンを見込む。

## 営業利益

14年度：射出成形機の売上増・利益率改善、精密先端機器も改善し大幅増加。

15年度：射出成形機は上期好調持続。精密先端機器も堅調に推移。

単位：億円



# 建設機械

## 受注・売上

### <油圧ショベル>

**14年度：** 国内需要減も排ガス規制対応等で下支え。在庫調整完了の北米・欧州の売上増。中国は需要減少が継続。CNHiとの新たな協業スタート。

**15年度：** 国内の排ガス規制対応の反動減、中国の市況回復遅れを北米他でカバー。CNHiとの連携加速。

### <モバイルクレーン>

**14年度：** 北米の期初寒波影響やエネルギー関連の需要回復遅れにより売上減。

**15年度：** 北米市場の回復見込む。

## 営業利益

**14年度：** 油圧ショベルの売上増、為替好転等により増益。

**15年度：** ショベル、クレーンとも緩やかな売上にともなう利益水準維持。



# 産業機械

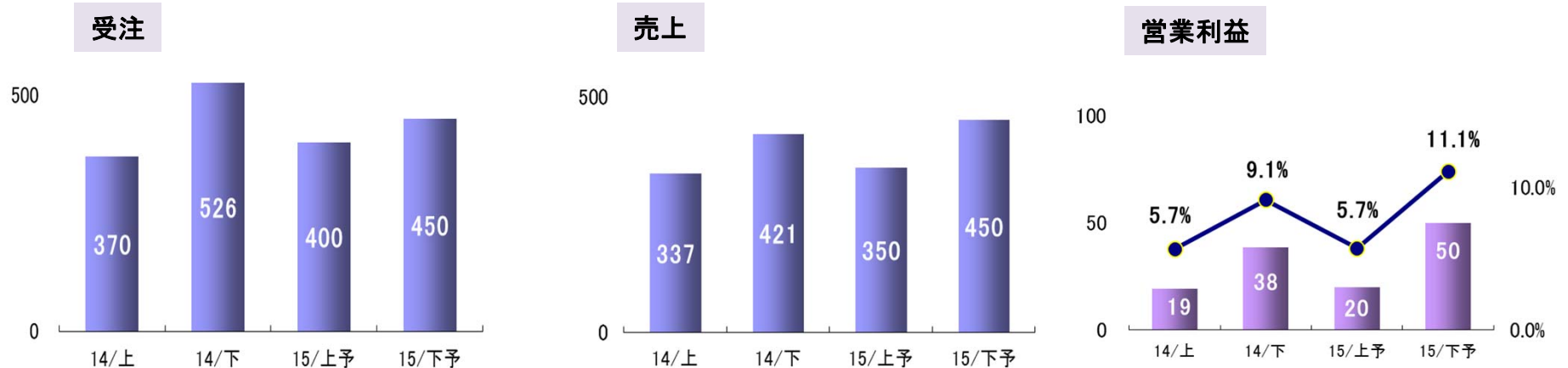
## 受注・売上

- 14年度：** 産業用クレーンは国内造船所の投資意欲回復を受け受注増加。  
タービン・ポンプは製糖向けがタイの政情安定により回復、国内外の自家発電関連の好調等で受注が増加。売上は製鉄機械、鍛造プレスなどで減少。
- 15年度：** タービン・ポンプの好調継続、産業用クレーンの安定的受注に加え、医療機器で陽子線治療システムも受注。タービン・ポンプ、産業用クレーンの売上増加。

## 営業利益

- 14年度：** 産業用クレーン、タービン・ポンプが好調。
- 15年度：** 売上増にともない増益。

単位:億円



# 船舶

## 受注・売上

**14年度：** 中型タンカー市況は徐々に回復。当社はアフラマックスタンカーを9隻受注（前期比4隻増）し、14年度末の受注残は12隻、17年度までの操業確保。引き渡しは3隻（前期比2隻増）で売上増。

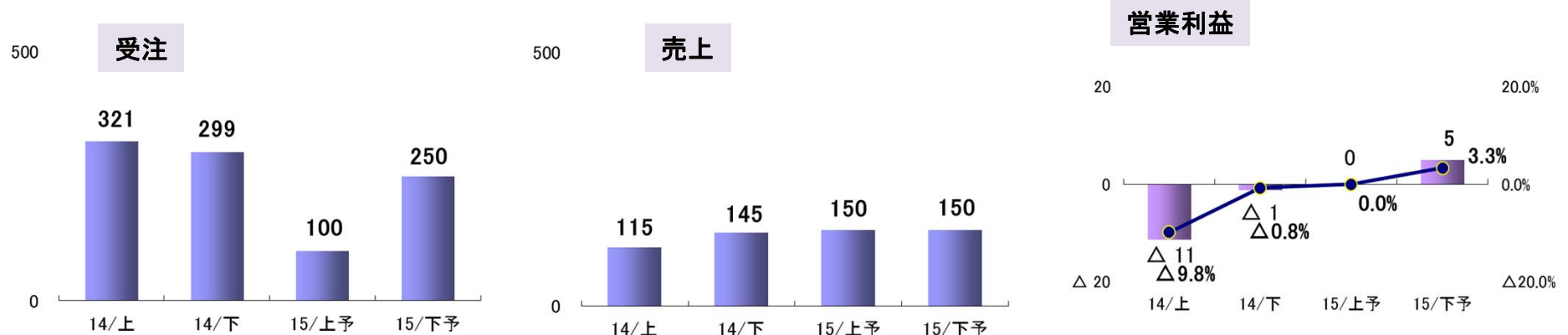
**15年度：** タンカー市況は堅調に推移すると予測するが、当社は4-5隻／年の建造、受注残3年前後を目安に選別受注を図る。引き渡しは3隻を予定も工事進行基準による売上増。

## 営業利益

**14年度：** 操業度改善、固定費削減等により損益改善。

**15年度：** 受注回復による操業度改善、個別採算改善により通期黒字。

単位：億円



# 環境・プラント

## 受注・売上

**14年度：** CFBボイラは国内のバイオマス発電関連が好調で受注、売上ともに増加。

水処理は大型改造案件が少なく受注・売上ともに減少。

**15年度：** CFBボイラは国内向けバイオマス発電関連が好調継続。

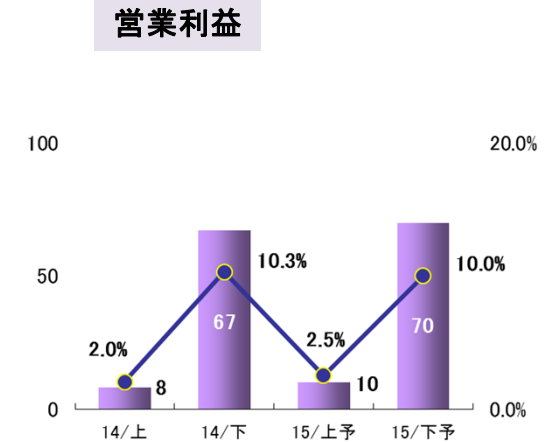
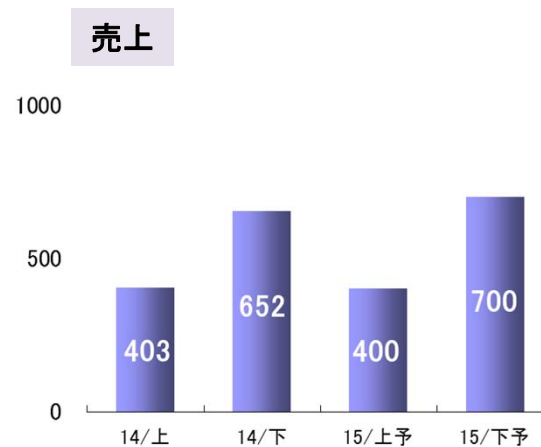
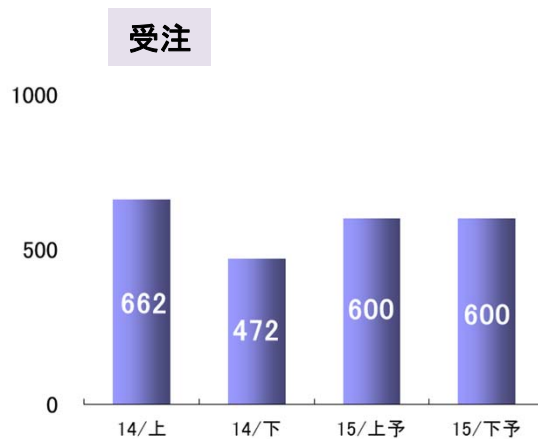
水処理は大型改造案件受注を見込む。

## 営業利益

**14年度：** CFBボイラの売上増により増益。

**15年度：** 前年並み利益率を維持。

単位：億円



# 2015年度セグメント別業績予想まとめ

単位:億円

		2014上期 実績	2014下期 実績	2015上期 予想	2015下期 予想	2014年度 実績	2015年度 予想
機械コンポーネント	受注高	514	533	550	550	1,047	1,100
	売上高	484	542	550	550	1,026	1,100
	営業利益	34	32	40	50	66	90
精密機械	受注高	719	827	700	700	1,546	1,400
	売上高	708	756	800	700	1,464	1,500
	営業利益	66	69	70	70	135	140
建設機械	受注高	1,016	1,049	1,000	1,100	2,065	2,100
	売上高	977	1,043	1,000	1,100	2,020	2,100
	営業利益	74	46	50	70	119	120
産業機械	受注高	370	526	400	450	896	850
	売上高	337	421	350	450	758	800
	営業利益	19	38	20	50	58	70
船舶	受注高	321	299	100	250	619	350
	売上高	115	145	150	150	261	300
	営業利益	△11	△1	0	5	△12	5
環境・プラント	受注高	662	472	600	600	1,134	1,200
	売上高	403	652	400	700	1,055	1,100
	営業利益	8	67	10	70	75	80
その他	受注高	54	48	50	50	101	100
	売上高	38	48	50	50	86	100
	営業利益	10	9	10	10	18	20
合計	受注高	3,655	3,753	3,400	3,700	7,408	7,100
	売上高	3,063	3,608	3,300	3,700	6,671	7,000
	営業利益	199	261	200	325	460	525

# 「中期経営計画2016」進捗

 住友重機械工業株式会社  
社長 別川 俊介



# 「中計16」の進捗

「中計16」の目標	2014年度 実績	2015年度 予想	2016年度 計画
1. 着実な成長	}	}	継続して取り組む
2. 高収益への反転			
3. たゆみなき業務品質改善			
4. 数値目標	1年前倒しで達成見込み		
2016年度 売上高 7,000億円	6,671億	7,000億	計画数値は現状では 据え置く。
営業利益率 7.5%	6.9%	7.5%	
ROIC 7%以上	6.5%	7.2%	
配当性向(3カ年) 30%目標	30%	29%	
5. 投資(決裁ベース)	積極的な投資で計画を上積み		
設備投資(3カ年) 500億円	160億	270億	200億(計 630億)
研究開発(3カ年) 450億円	140億	155億	155億(計 450億)
6. 採用(3カ年) 600名	233名	約260名	約190名(計 約690名)

# 「中計16」 成長に向けた課題

キーワード	課題
グローバル化 (拡がる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 変減速機(海外)、射出成形機の競争力強化</li> <li>● エリアマーケティングの強化(変減速機、射出成形機、建設機械)</li> <li>● グローバル人材の育成</li> </ul>
イノベーション (変わる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一流商品の創出</li> <li>● プロジェクト遂行能力の強化</li> <li>● アフターマーケットへの注力</li> <li>● 営業プロセスの変革</li> </ul>
グループ内の連携、 シナジー(つながる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ内価値連鎖の推進</li> <li>● システム制御技術による差別化</li> <li>● 事業グループ内の連携強化(変減速機、射出成形機、建設機械)</li> </ul>
新成長分野への注力	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーにおけるニッチトップおよび周辺分野での成長</li> <li>● 医療分野の長期的成長</li> </ul>

# 「中計16」における事業の位置付け

	成長事業 (成長・高収益を めざす事業)	安定収益 (収益力を強化する 事業)	自立化 (自立・安定化に 注力する事業)
次世代 事業	極低温冷凍機 医療関連装置		
装置系 事業	変減速機 射出成形機	油圧ショベル	鍛造プレス
インフラ系 事業	産業用クレーン CFBボイラ タービン	モバイルクレーン	造船

優先的に投資を実施

# 「中計16」における成長ドライバー

変減速機	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 北米・東南アジアの営業力強化、欧州テコ入れ</li> <li>➤ ロボット、工作機械など成長セグメント注力</li> <li>➤ 新商品の投入、制御系とのシナジー実現</li> </ul>
射出成形機	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 欧州の電動化推進によりグローバルシェア拡大</li> <li>➤ IT関連に加え、自動車関連分野への注力</li> <li>➤ 新商品の投入</li> </ul>
医療関連装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 陽子線がん治療装置の技術の蓄積を図る</li> <li>➤ 加速器技術を基盤とした新市場の開拓(BNCT)</li> </ul>
CFBボイラ タービン	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ (CFB)国内はFIT案件、海外はアセアン市場へ注力</li> <li>➤ (タービン)海外自家発電市場へ注力</li> <li>➤ 再熱中型タービンの開発・投入</li> </ul>
産業用クレーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 三菱重エマシナリーテクノロジー／クレーン事業との統合によるリソース充実(人材、技術、顧客アセット等)</li> <li>➤ 統合効果の早期実現</li> </ul>

# 産業用クレーン事業の統合概要

## ■ 国内トップの産業用クレーンメーカーを目指すとともに海外での事業強化を図る

### 概要

住友重機械搬送システム(MH)は三菱重工マシナリーテクノロジー(MT)のクレーン事業を統合する

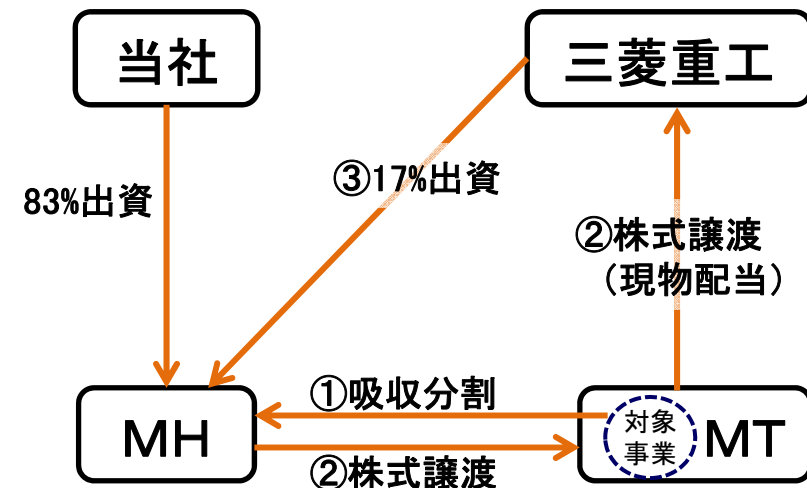
- ・統合予定日は2015年10月1日
- ・三菱重工はMHに出資する
- ・事業所は最終的には新居浜に統合する

### 狙い

- (1)優良かつ豊富な顧客基盤の継承  
納入実績、優良顧客
- (2)人材リソースの充実  
相互補完
- (3)優れた技術資産の獲得  
自動化、制御、免震システム等々

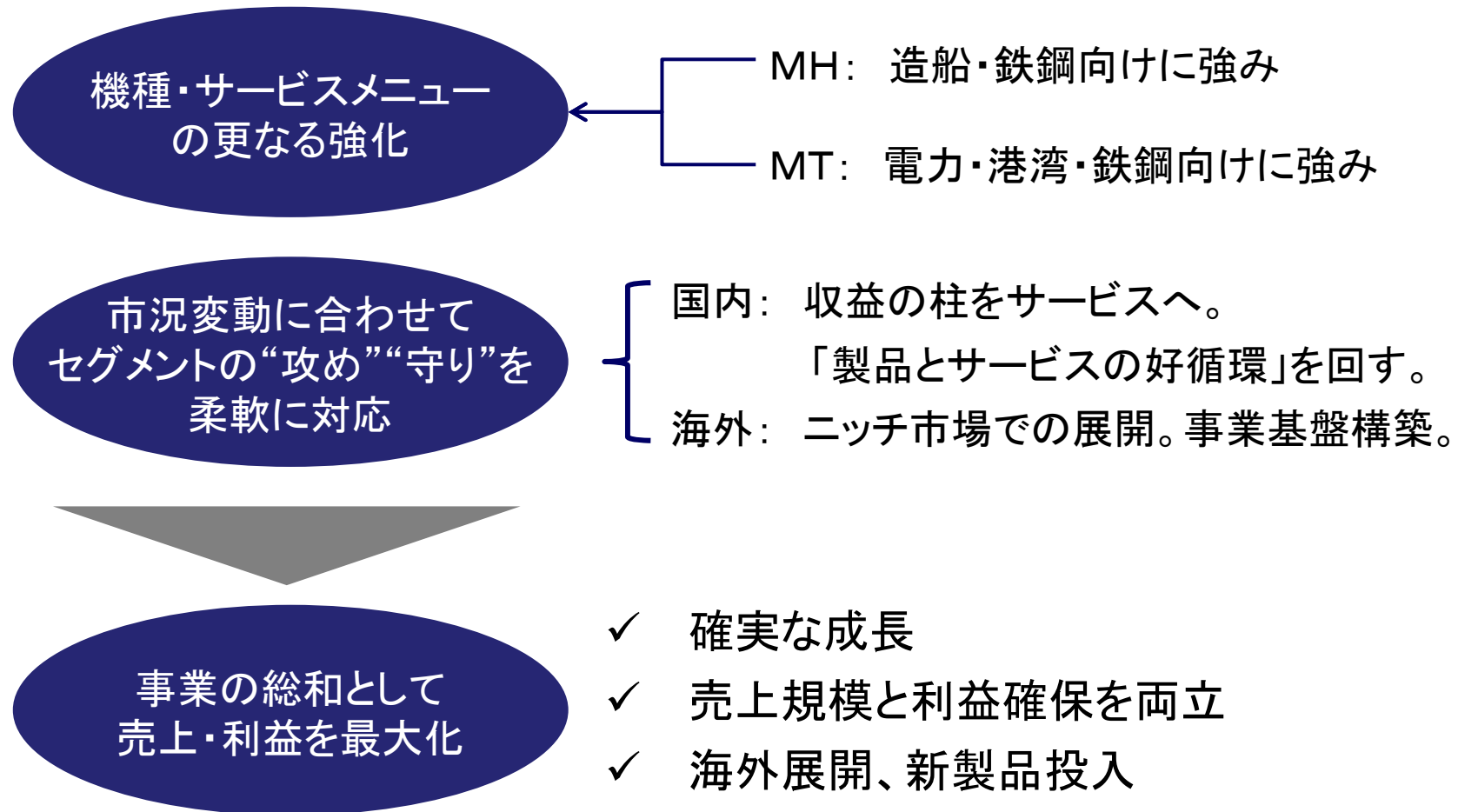
### スキーム

1. 吸収分割  
MTがクレーン事業を切り出して、MHが吸収する
2. 株式譲渡  
MHが新株をMTへ譲渡、即三菱重工へMTが現物配当する



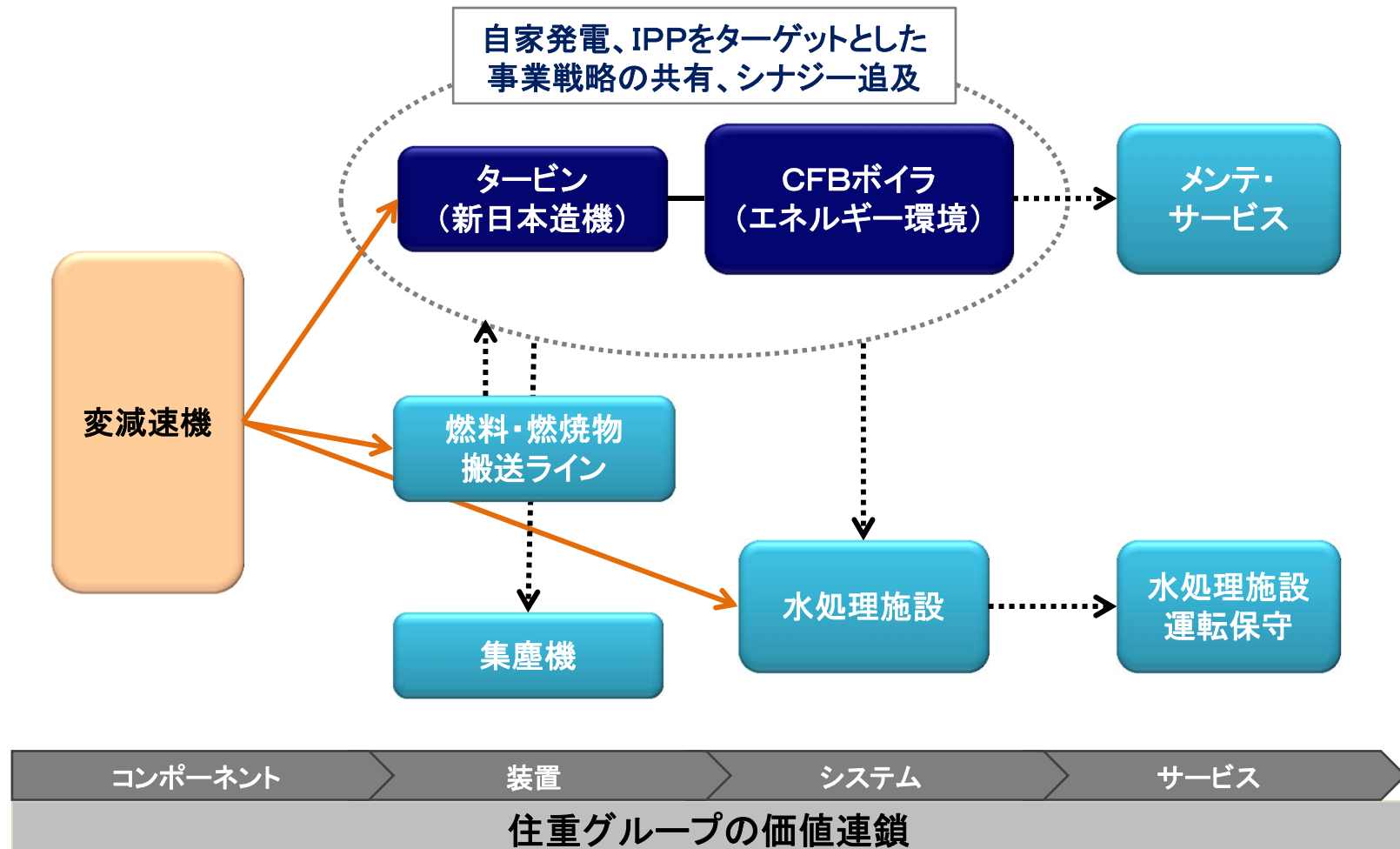
# 産業用クレーン事業戦略

## ■ 機種・サービスの多様な品揃えによる市況への柔軟性を強みとして安定的に成長



# エネルギー事業に関連するONE-SHIの取り組み

- タービン・ボイラ事業を中心として関連する事業・機種間の情報共有とコラボレーションを進める。



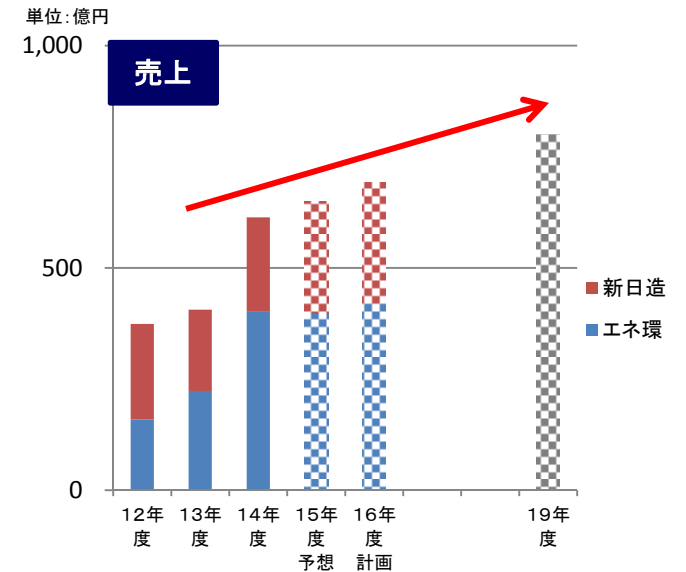
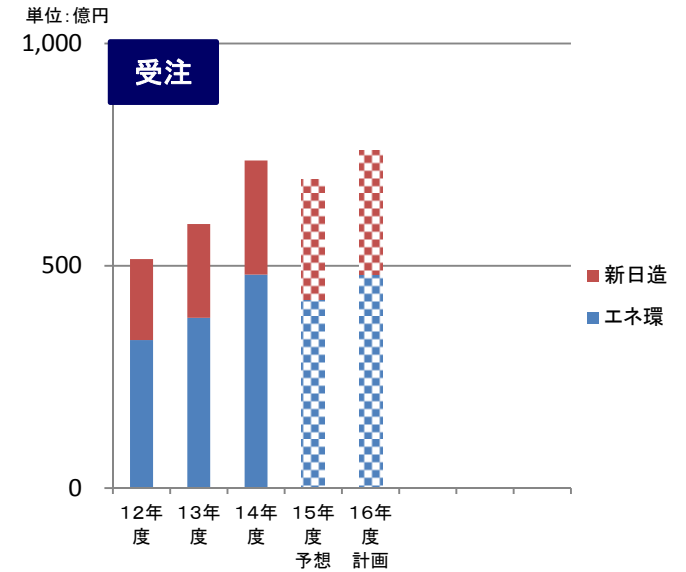
# エネルギー関連事業の受注と今後の見通し

## ■ ボイラとタービンの受注堅調

FIT制度による需要拡大と新興国でのエネルギー需要堅調

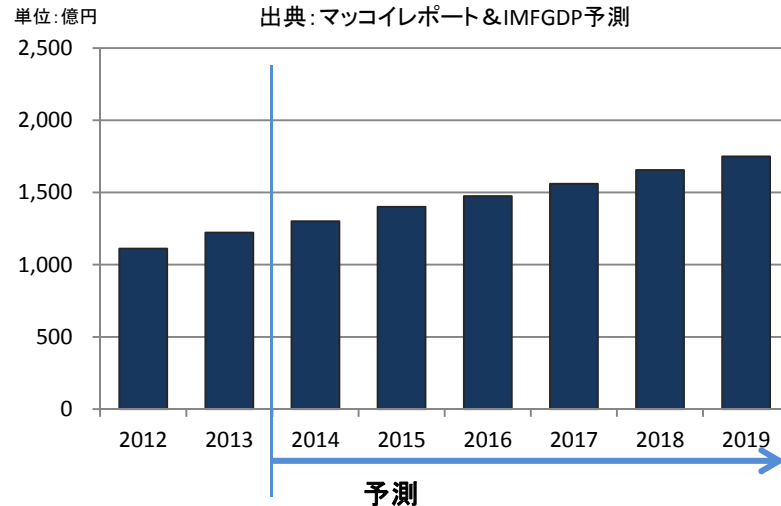
<ボイラ受注状況(件数)>

		2012	2013	2014	2015	2016
国内	30-200MW	1	1	3	2件/年程度	
	5-30MW	2	2			
	5MW以下	1	4	2	1-3件/年程度	
海外	30-200MW				1件/年程度	
	5-30MW	1				
	5MW以下				1件/年程度	



分散型発電市場規模推移(<100MW)

出典: マッコイレポート&IMFGDP予測





将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。